

## Ⅱ 高次脳機能障害とは

### ① 高次脳機能障害とは

脳血管障害や頭部外傷などによって脳が損傷され、言語・思考・記憶・遂行・学習・注意などの機能が働きにくい状態をいいます。  
この障害は外見上わかりにくい為、一般の方に理解されにくく、本人や家族の負担が大きなものになりやすいことがあります。

#### 【主な症状】

#### 記憶障害

- ・何度も同じことを聞く
- ・新しいことを覚えられない

#### 注意障害

- ・作業にミスが多い
- ・気が散りやすい
- ・集中できない

#### 遂行機能障害

- ・計画性がない
- ・目標設定が困難

#### 行動と感情の障害

- ・突然怒り出す
- ・幼稚になる
- ・場違いな行動、発言をする

#### 半側空間無視

- ・片側の空間を認識できない
- ・ぶつかりやすい

#### 失語症

- ・滑らかに喋れない
- ・言葉が理解できない
- ・字の読み書きができない

#### 失行症

- ・道具が上手く使えない
- ・動作がぎこちない

#### 失認症

- ・物の形・色がわからない
- ・人の顔がわからない

#### 半側身体失認症

- ・麻痺側を認識できない
- ・麻痺がないように振る舞う

#### 地誌的障害

- ・道がわからない
- ・場所の認識がない

【高次脳機能障害はこれらの症状が重複していることが多く、各々の症状により異なります。】

## ② 診断基準

「高次脳機能障害」は、学術用語として脳損傷に起因する認知障害全般を指し、この中には巣症状としての失語・失行・失認のほか記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などが含まれる。

一方、平成13年度に開始された高次脳機能障害支援モデル事業において集積されたデータを慎重に分析した結果、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害を主たる要因として、日常生活及び社会生活への適応に困難を有する一群が存在し、これらについては診断、リハビリテーション、生活支援等の手法が確立しておらず早急な検討が必要なことが明らかとなった。

そこでこれらの者への支援対策を推進する観点から、行政的に、この一群が示す認知障害を「高次脳機能障害」と呼び、この障害を有する者を「高次脳機能障害者」と呼ぶことが適当であるとした。

### 診断基準

#### I. 主要症状等

1. 脳の器質的病変の原因となる事故による受傷や疾病の発症の事実が確認されている。
2. 現在、日常生活または社会生活に制約があり、その主たる原因が記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害である。

#### II. 検査所見

MRI、CT、脳波などにより認知障害の原因と考えられる脳の器質的病変の存在が確認されているか、あるいは診断書により脳の器質的病変が存在したと確認できる。

#### III. 除外項目

1. 脳の器質的病変に基づく認知障害のうち、身体障害として認定可能である症状を有するが上記主要症状(1-2)を欠く者は除外する。
2. 診断にあたり、受傷または発症以前から有する症状と検査所見は除外する。
3. 先天性疾患、周産期における脳損傷、発達障害、進行性疾患を原因とする者は除外する。

#### IV. 診断

1. I～IIIをすべて満たした場合に高次脳機能障害と診断する。
2. 高次脳機能障害の診断は脳の器質的病変の原因となった外傷や疾病の急性期症状を脱した後において行う。
3. 神経心理学的検査の所見を参考にすることができる。

診断基準のIとIIIを満たす一方で、IIの検査所見で脳の器質的病変の存在を明らかにできない症例については、慎重な評価により高次脳機能障害者として診断されることがあり得る。

また、この診断基準については、今後の医学・医療の発展を踏まえ、適時、見直しを行うことが適当である。

「高次脳機能障害支援コーディネートマニュアル」(中央法規)より

### ③ 高次脳機能障害の評価

高次脳機能障害の評価法には様々な種類があります。  
その中からいくつか種類を挙げています。

	検査名	検査の概要
知能	WAIS-R WAIS-III (ウェクスラー成人知能スケール)	具体的で多様な言語的・非言語的検査を集めて、知能の全体的な輪郭を捉えようとする検査。認知力以外の多くの要因も含む多面的・全体的・総体的能力である知能を測定する。
	HDS-R (長谷川式簡易認知症スケール改正版)	簡易知能評価スケール。見当識、記銘、計算、語想起などから成る。
	MMSE (ミニメンタルステイト)	簡単な認知機能の検査。認知症の診断にも用いられる。見当識、記銘、言語理解、図形模写などから成る。
注意	かな拾いテスト	全て仮名で書かれた文章の中から「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」の5文字を拾う検査。同時に内容理解が問われ、正解数や見落とし数、誤り数、見落とし率が求められる。
	標準注意検査法	注意力を標準化された方式で評価できる。
	TMT (トレイルメイキングテスト)	ランダムに配置された数字や仮名を順に繋いでいく課題。注意の分配、制御機能が関与する。
遂行機能	WCST (Wisconsinカードソーティングテスト)	概念の操作における柔軟性や転換能力をみる。
	BADS (遂行機能障害症候群の行動評価)	遂行機能症候群によって生じる日常生活上の問題を予測する為の検査バッテリー。
記憶	三宅式記名力検査	有関係・無関係の対語10組から構成。その組み合わせを記憶させる。記銘力を評価する検査。
	RBMT (リバーミード行動記憶検査)	記憶障害の有無と重症度評価、記憶のリハビリテーション、社会復帰等の指標に有効。